

田川郡香春町の炭坑ことば

杉 村 孝 夫

1. 1 はじめに

福岡県田川郡香春町は、「青春の門」で名高い香春岳の麓にある。香春町方言は豊前方言域に属し、①アクセントの特徴は次の通りである。

表1 2拍名詞アクセント

	東京	門司	香春	宗像	所属語例
1類	○●▶	○●▶	○●▶	○●▶～◎●▶	風・口・鼻・水
2類	○●▶				石・音・紙・橋
3類					足・色・犬・花
4類	●○▶	●○▶	●○▶	●○▶	帯・肩・舟・松
5類					秋・雨・猿・鍋

○は高い拍、●は低い拍、▶、▷は1拍の助詞を示す。◎はやや高い拍。

概略、平安末の京都アクセントから、東京は、近世初期の京都アクセントで2・3類が統合したのを引き継いでおり、豊前の門司・香春では1・2類が統合して2・3類は区別を保つ。この京阪・東京アクセントにおける2・3類統合は2・3類区別の維持と大きく対立しており、後者は筑前アクセントや九州西南部式アクセント、また、琉球諸方言の二型アクセントにも通じる特徴である。

さらに下記②から⑥のような点でも香春町方言は豊前方言の特色を示す。

- ② [t^su] タ行ウ段の子音は、80代では、しばしば弱い摩擦を伴う破擦音で現れる。例：[t^suto]（ふくらはぎ）[t^sumasaki]（爪先）[kiga t^suku]（気が付く）[ket^suat^su]（血圧）

しかし、それ以下の年齢では破擦音の [tsu] である。

- ③ [je] 語頭の母音エは弱い半母音を伴うことがまれにある。これも80代でのみ観察される。例：[jeki]（液）

福岡県内では筑後と豊前南部にまれに聞かれるという（岡野1983）。

- ④ ラ行音は破裂性が強く、ダ行音かと思われるほどである。例：[rampu]
(ランプ) [rappa] (ラッパ) (表記は [r] で示す)

豊前域や筑前東部域でラ行音のダ行音化をまれに聞くという（岡野1983）。

- ⑤ ダ行音のザ行音化した例も観察された。例：[tozana]（戸棚）

- ⑥ 共通語の「の」に当たる助詞、形式名詞は「ノ、ン」で現れる。

例：チョーメンガ デヨツタンノネ（掛売り帳が出ていたのよね）

ホカン シトモ ソー シヨツタケド（他の人もそうしていたけど）

アノ ケン カイタンノ アガリケンチューノ ハイル シトダケ（あの、書いたのをく言い換え）アガリケンと言うのをく坑内へ入る人だけ）

- ⑦ 筑前域でさかんな形式名詞「ト」も使われる。

例：モノー カウトニネー（ものを買うのにね）

ランプミタイナトデ シラブルトデスヨ（ランプみたいなので調べるのですよ）

- ⑧ さらに、下関市でさかんな「ソ」も聞かれる。

例：タカイチューソモ アル（高いというのものもある）

マチサイ イクソニ ツゴーガ イー（町に行くのに都合がいい）

「ソ」は「ホ」とともに下関市でさかんに用いられるが、「ソ」は北九州市にもまれに聞かれる（岡野1991）。

以上①から⑥及び⑦のような点からみると豊前方言の特徴の基礎の上に筑前東部方言の待徴が加わった性格が香春町方言の特徴と言えよう。また、⑧により、下関市など山口県方言とのつながりも持っている。

1. 2 資料の経緯

炭坑ことばの教示は香春町の1959（昭和34）年閉山になった小規模炭坑で働いた3人の女性から受けた。

資料の経緯は次の通りである。まずはじめ、香春町史「方言」の部執筆のため香春町史編纂委員と調査員が香春町内の炭坑で働いた女性3名と男性2名に炭坑

ことばについて教示を受け、得られた語彙を50音順に並べ、意味を整理した（語数126、B5で5枚、資料I）。これをもとに再度、1998年5月、筆者と編纂委員の木村晴彦氏とで先述の5名のうち女性3名に発音・意味等を約3時間にわたり確認をした（録音は2時間23分）。そのときの録音の文字化資料を「炭坑ことば」の考察対象とする。

確認調査の際には、資料Iをきっかけとして自然な談話を記録するよう努めた。その中に炭坑ことばの自然な用法が表れれば、メタ言語としての炭坑ことばではない、生きたものが得られると期待したからである。

1. 3 話者について

K=1924（大正3）年生まれ。1943（昭和18）年から炭坑で働き始めた。終戦前は坑内で仕繰の補助の仕事をしたが、戦後は坑外で働いた。坑内の方が（賃金）よかったが、戦後は規定により入れなくなった。1959（昭和34）年閉山になったので離職した。

I=1931（昭和6）年生まれ。「ランプ室」等で働いた。

F=1929（昭和3）年生まれ。坑外の仕事をした。

1. 4 炭坑ことばの分類

金子雨石『筑豊炭坑ことば』（1974）は貝島炭鉱で大正5年から昭和25年まで石炭産業に従事した経験をもとに炭坑ことばを記したものである。金子は収録した1294語の炭坑ことばを9部門に分類した。それは次のようなものである。

1. 地層・岩石・石炭（加工炭を含む）
2. 坑道・掘進
3. 切羽・採掘
4. 火薬・発破
5. 支柱・仕繰
6. 運搬・運炭・選炭

7. 照明・通気・保安・測量

8. 機械・排水・電気

9. 生活・人事

これにならって香春町で得られた炭坑ことばを分類し、簡略に意味・用法を記すことにする。なお、「はピッチの上昇、」はピッチの下降を表す。○は話者のことば。

2. 1 地層・岩石・石炭（加工炭を含む）に関することば

◎「カイトン【塊炭】 石炭の塊。クラッシャーで砕いてハコ（炭車）に入れる。

塊炭が一つ有れば、家庭では七輪に入れて使い、一日分の熱源となった。

◎シ「メタ」ン【しめ炭】 スミ（石炭）の中にボタが筋のように入ったもの。

シメタンはカイトン（塊炭）の区分にし、ボタとは区別した。

◎「ダンソ」ー【断層】 石炭の層の切れたところ。「ダンソーニ イ「キアタ」ッ
タところで仕繰りは止める。○ス「ミ」ガ モ」ー ナ」イトデスタイ ソッ
「カラサキ（石炭がもう無いのです、そこから先）。

◎「チューカイ【中塊】 中ぐらいの大きさの石炭。選炭の際、「フンタン（粉炭）、
「チューカイ、「カイトン（塊炭）の3段階に分けた。

◎ニ「ゴ」タン【二号炭】 石炭の中では質の悪いもの。「フンタン（粉炭）、シェ
「キタ」ン（石炭）、シ「メ」タン（しめ炭）の次の質。これ以下はボタとなる。

◎ヒ「ライタン【拾い炭】 ボタ山に捨てられたボタの中から石炭を拾い出すこと。
「拾う」ことをヒラウと言う。

◎「フンタン【粉炭】 選炭の際、「フンタン、「チューカイ（中塊）、「カイトン
（塊炭）の3段階に分ける。そのもっとも小さいもの。

2. 2 坑道・掘進

- ◎ア「トケン【後間】 調査の過程で出てきたが、この語は使わない。○仕繰り後の間取り（仕事量の測量）のことではないですか。

- ◎オ「ロシ【御】 坑道の一番底の、仕事をする所に行くこと。「何方のオロシの用」とか言って函でも何でも、頼むときは言っていた。

- ◎カ「タバン【方盤】 本卸（ホンオロシ）と直角に延びている水平坑道。○やはりカネカタの所の事。あそこの方盤はどうとかと言ったものだ。

- ◎カ「ネカタ【曲片】 坑内の左右に掘られた坑道。坑内は木の根のようになっていた。金子（1974）により補えば、傾斜する炭層に直角の、傾斜の無い採炭のための坑道となる。カ「ネカタツ」クリ（曲片作り）はクツ「シン（屈進）の作業。

- ◎キ「リツメ【切り詰め】 坑道の終点。

- ◎クツ「シン【掘進】 坑道を掘り進むこと。ボタも石炭も皆一緒に壁（炭層）を突き破っていく。

- ◎ケ「ントリ【間取り】 仕繰りの仕事をした後、仕事の量を計るために間数を計ること。一間いくらかで給料になった。

- ◎サ「キノビ【先延び】 仕繰り方が石炭やボタの混じった炭層を採炭できる切羽の所まで掘進すること。下記金子（1974）の記述とは意味が異なる。

さきぬび【先延】（金子 p.55）炭層の薄いところでは、主要坑道の掘進は、炭層だけではなく下盤掘進しなければならない。この場合、炭層を先に掘進して、下盤の掘進はその後を追う。これは、石炭に硬（ボタ）の混入を防ぐと共に、下盤打ち上げに火薬を有効に使用できることによる。この作業を交代番にして能率を上げる手段にもなる。この炭層掘進を先延という。

◎ホ「ゲ」ル【 】穴が開く。両方から掘ったトンネルがイ「キア」ウ（出会う）ときに言う。

◎ミ「ズナグレ【水なぐれ】ポンプの故障などで坑内に水が溜まり、仕事ができなくなること。

◎ニ「ノアセ【担わせ】採炭夫が掘ったすぐ後に崩れないように立てる支柱。技術が良くなければできない。下手な人がしたら長くしないうちに動く。ちょっと動いたらもう荷重に絶えない。○ニ「ノアセ イ「レ」ル（支柱を立てる）。

2. 3 切羽・採掘

◎ア「シナカワ」ラジ【足半草鞋】かかとにあたる部分のない短小な草履で農山村で用いたものであるが、坑内では上り下りに爪先だけに力がいったため、買ってスラ（櫓）引きに女性の坑夫が使用した。

◎ア「トバラシ【後崩し】採炭の後、天井に残った岩盤の崩れ落ちそうな、危ないところを安全なように落とすこと。

◎サイタンガ トツテイクデショ ソノアト危ないところを落として、上から落ちないように、後が危なくないようにシタ ツツパリ（下につっかえ）をしてカコーテ（囲って）行く。ワクオ イレル（杵を入れる）。それをシ「チュ」ーオ ウ」ツ（支柱を打つ＝仮の杵組みをする）と言った。これはホンワク（本杵）とは別の物。

◎ア「トムキ【後向き】ア「ト」ムキとも。ア「ト」ヤマ【後山】と言うべきであろうが、アトムキと言っていた。サ「キヤマ【先山】というシ「クリ【仕繰】（坑道の枠組みや補修）をする坑夫の仕事を助ける人。女が多かった。

○男の人〈先山〉が先に立って支柱を入れる。それにアトムキがナ「ルギ【成木】（枠と枠の間に差渡して天井囲いをする木）やワ「クギ【枠木】（天井支柱の組み木）など支柱を組むための色々な「ドーク（枠を作るための材料・道具）を持って行く。

◎ウ「ワメ ク」ル【上目繰る】上役の目を盗んで要領よく仕事をしないこと。

○ウ「ワメンジョ」ー ク」ッテ（上目ばかり繰って）。仕事を真面目にしないこと。例えば4、5人で仕事しているとき便所に行くようなふりして向こうの方で座っていたり、そういう風な人のことを上目繰ると言う。

◎「オーダシ【大出し】石炭を一時に大量に出炭すること。今日は大出しだからとか言ってニギリゴハン（握り飯）をして坑口に持っていった。増産増産で一月に一回ぐらいアリヨッタロー（していた）。

◎カ「ライテ」ボ【背負い籠】カ「ルイテ」ボとも。背負い籠の縁を斜めに切り落とした形の坑内用の籠。

◎キ「リダシ【切り出し】後山または先山が休み、残った一人だけで仕事すること。先山さんがいなくても後向きさんのしっかりした人は採炭でも自分で掘って一人で帰ったものだ。女の人がするということは減多にないがやる人はやっていた。

◎キ「リハ【切羽】石炭を掘り出す所。採炭作業をする所。

◎サ「イタ」ンフ【採炭夫】石炭を掘り出す坑夫。

○ヤッ「パ タンコー」ジャ サ「イタ」ンフガ イ「チ」バンタイ（やはり炭坑では採炭夫が一番だよ）。

◎サ「サベヤ【笹部屋】坑内の詰所。何箇所かあった。

◎サ「シ【差し】差向いの意で、二人一組のこと。仕繰方の場合、後向きが三人位に先山が一人か二人のときがある。

◎ス」コ【オ schop】スコップの略称。○ス」コヤラ ツ「コーテ」モ…（スコップなど使っても…）。

◎ス「ラ【櫓】石炭搬出に使った木製の函型の櫓。○「サイタンノ シ「トワス「ミ」オ ツ「ミマ」スタイ。ワ「タシ」タチワ シ「クリ」デスカラ ボ「タモ ス「ミ」モ デ」ルカラ ソ「レ 「ツンデ コッチ」マデ シッ「パ」ッテ デ「ラ」ンナ「ラ」ンデスタイ。「ホーテ ア「タマ ア「ゲラレ」ンケ ヒー「ク」イケ 」コーテ ア「ゲヨ」ッタ 「オーゴト ケ」ガ スル（採炭の人は石炭を積みます。私たちは仕繰りですからボタも石炭も出るからそれを積んでこっちまで引っ張って出なくてはならないんです。這って。頭が上げられないから、天井が低いので、こうして頭を下げてスラを上げていた。大変だった。油断したら怪我をする…）。○ス「ラ ヒ「ク（櫓を引く）。

◎タ「ヌキボリ【狸掘】狸の掘った穴のような坑道を掘って採炭する設備のない小規模な炭坑。坑内がトンネルじゃなくて、そんな所を掘ったと言う話を聞いた。

◎ニ」ガ カ「カル【荷がかかる】天盤に重圧がかかる。

◎フ「ルトー【古洞】昔採炭した古い坑道が残っているもの。フルトーを突き破ったら溜っていた水が一度に坑内に流れ出す。

◎ボ「タ カ「ブ」ル【硬被る】①落盤により負傷すること。②人が嫌う仕事をさせられたり、保証人になって損をしたり迷惑をしたりすること。

2. 4 火薬・発破

◎ギ「チ【 】発破に使う粘土の詰め物。ボタ山に行ったら青みがかったギチがアリヨッタ（有ったものだ）。私の家の畑には今でも掘っていたらねばねばしたものが出る。

◎マ「イト【ダイナマイト】ダイナマイト。○マ「イト コ」メテ マ「イト カ」ケテ（ダイナマイトを込めて、ダイナマイトを破裂させて）

◎マ「イトカタ【マイト方】ダイナマイトをかける人。

2. 5 支柱・仕繰

◎ア「タリ ツ「ケ」ル【当り付ける】杵入れをした時の天井や壁のすきまをふさぐ。

◎カ「ミサ」シ【髪差し】杵入れをするとき使う三味線のばちのような形のくさび。カミサシを隙間に打ち込むとき、アトムキが杵と天井の間隙の厚みを見て割っておいたナルギの先を削って持っていかなければならない。

◎「カンオ ク」ー【勘を食う】石炭の荷積みが悪かったことで賃金を割引されること。函を早くいっぱいにして隙間をつくって石炭を積んだ（これをチョーチンハ「ルと言う）のが、動いて隙間が埋まり八分ぐらい有った

のが六分ぐらいに減って積み出し量の記録を減らされること。

◎キ「リハズ」クリ【切羽作り】切羽までの坑道を作ること。サキノビ（先延び）とも。切羽を仕繰って行くので切羽作りと言う。仕繰り方が仕繰って行かなければならない。ぼたやら石炭が壁になっているところを坑道を作る。先へ延びるので先延びと言っていた。

◎コ「ーボ」ク【坑木】坑内の支柱用の木材。丈夫で腐らない松の木を使った。

◎タ「カバレ」【高ばれ】天盤の高く、広いところから落盤すること。

◎シ「クリ」【仕繰り】坑内の坑道や切羽の掘進や支柱立て、補修をする仕事。

◎シ「クリカタ」【仕繰り方】仕繰りの仕事をする人。

◎シ「クリ」ヨキ【仕繰り斧】仕繰りの作業に使う斧。○ヨ「ーキ マ」タ シ「クリノ ヨ」ーキ。ヨ「ー キレン」ト ツ「マラ」ンキ カ「ミサ」シーキ「ラ」ンナランキ「ネ（斧、また仕繰りの斧くと言う）。よく切れないとだめだから、カミサシを切らなければならないからね）。→カミサシ

◎シ「チュー」【支柱】仕繰り方が、落盤を防ぐために当てる支え。○（サイタンく採炭夫）が掘っていった後に）シ「チュー」モ ウ「タ」ンナ「ラ」ンデスバ「イ（支えをはめなければならないよ）。これは立派に作った枠組みとは違う。長い坑木を天井に沿って当て、両方に足をつけ、天井との隙間はカミサシ（くさび）で締めて天井が落ちないようにする。

◎ジュ「ーテ」ン【充填】石炭を掘った後、落盤を防ぐために、古い大きな坑木を井戸のように四角に積んでその中に天井までいっぱいになるようにボタを入れること。

◎タ「ヌキバ」シラ【狸柱】この言葉は使わない。木口を下盤に付け、元口で天井を支えるのが正規の立て方。

◎バ「レ」ル【 】落盤する。○私も杵が動くのを見たけど、杵に掛けているカンテラがギリギリと音がするので、ほら落盤するよと言って飛び上がったようだった。動いているのに気が付かなかっただ変だ。下敷になったりする。落盤して坑道が詰まったら息ができなくなる、通気が悪いから。大きな炭坑だったらそこが詰まっても別の所に逃げ道がある。通気の良いところがあるからいいが。

◎バ「ンブクレ」【盤膨れ】坑道の地盤が盛り上がること。キ「コズミ（坑木を積みあげることを）をしていないところは押えがないので。

◎ラ「クバン」【落盤】天盤が破壊して崩落すること。バレルと言う。→バレル

2. 6 運搬・運炭・選炭

◎イ「ッ」ポンケン【一本剣】車道の分岐点に使用する手動転轍器。一間位の長さの鉄棒の先端に又が付いていてレールを動かす。車道の函をあっちに流し、こっちに流しすることを蹴るといふ。「一本剣の蹴り別れ」とか言って坑道から上がっていたものだ。

◎ウ「ケズラ」【受け轆】切羽まで轆（ス「ラ」）を押して上がって、石炭などを積んで、坂になっているところを両手に受けて下がりながら運ぶこと。

◎エ「ンド」ロス【エ endless】線路上をケーブルを動かしそれに炭車を連結して運搬するもの。地上用ケーブルカー。以前は石炭を山積みにおいて籠でイノーテ（背負って）貨車まで持って行って降ろしていた。

◎「オーライ【エ all right】炭車の移動を停止するときの合図。車と反対。車
はオーライと言ったら行く。坑内はオーライと言ったら止まらないといけない。

◎ク「ラ」ッシャー【エ crusher】石炭の粉碎機。選炭作業で、塊炭はクラッシャー
で碎き、ハコ（炭車）に入れた。

◎ケ「ンカギ【剣鉤】単車の連結器をはずす鉤形の道具。ハコ（函＝炭車）とハ
コをつないでいるものをピンと言う。それに小さい鎖が付いている。これをケ
ンカギの先で引かけるとつながっているハコが離れる。喧嘩のときケンカギ
を使って激しくやり合うこともあった。

◎ケ「ンタン【検炭】坑内から上がった炭車の石炭の質（ほたの含有量）を調べ
て等級をつけること。○ス「ミ」モ イー ス「ミ」トカ「ネ…イ「チゴー」
タン ニ「ゴ」ータンチ ア」リヨッタ（石炭もいい石炭とかね、一号炭、二
号炭とあった）。

◎ケ「ンタンガ」カリ【検炭係】検炭をする係。

◎コ「ーナイダ」イク【坑内大工】炭車の線路の設置、補修をする坑夫。

◎サ「オ」ドリ【棹取り】坑内から石炭を巻き上げるため、炭車の操作をする坑
夫。サ「ンバシ（棧橋）という所から操作する。

◎サ「シコミ【差し込み】坑口から空の炭車を坑内に降ろすこと。この語は使わ
ない。

◎サ「シバ」コ【差し函】坑道を降りる炭車。坑内から巻き上げる炭車をマ「キ
バコ（巻函）と言う。

◎サ「シモドシ【差し戻し】巻き上げた炭車を、本線の運搬坑道に流し込むこと。

◎ザン」タン【残炭】前の番方が揚げ残した炭車の石炭。

◎サ「ンバシ【棧橋】棹取りの働く場所。高いところにあるのでこういう。棹取り自身のこともサンバシと言った。○ホ」ツパ カ」エス トコロ（ホッパー車を返す所）。

◎シャ「クリマキ【しゃくり巻き】炭車を引っ張るロープがスムーズにいかず、途中ではねること。下手な人が巻き上げることを言う。これによって怪我をした人もいた。

◎シャ「ドー」クギ【車道釘】枕木にレールを固定する釘。車道釘は大きいから踏み通すことはない。

◎シャ「ドーダ」イク【車道大工】軌道の敷設・修理などを専門とする大工。

◎シ「ラセ【知らせ】落盤の予兆。○落盤の前にはパリッとか、パラパラと言う音がする。そんなとき先山が判断してセ「ワナ」イ（心配ない）とか「危ないから逃げろ」と言う。パラパラし出したら大概ヨ「ケ」レ（避ける）と言って逃がす。「坑内ではべちゃくちゃしゃべってはいけない」と言うのは「知らせ」の音が聞こえないから。仕事の時はしゃべったら叱られた。話をするのは食事のときだけだった。

◎ス「カシボリ【透かし掘り】炭層の下の方をすかして掘ること。その後発破をかけて石炭を掘る。

◎ス「キ」ツッ【スキップカー】ボタを捨てるための両側が開く鉄製の炭車。

○ウ「エ」サエ マ「キア」ゲテ ヒ「ラ」クゴト ナ」ツチョル（上に巻き上

げてから開くようになっている)。

◎セ「ンタンバ【選炭揚】選炭をするところ。

◎セ「ンタ」ンフ【選炭夫】選炭の仕事をする人。手選りに従事するのは女性や子どもの専業であった。

◎ト「ロンメ」ル【エ trommel】水洗された粉炭をふるい分ける回転式円筒形の金網。

◎ナ「マ【生】素手。この言葉は使わない。ス「デと言う。坑内では手袋などするのは見たことがない。つるはしなどは手袋をしていてはすべる。

◎ネ「ジレゲッチ」ン【捻れげっちん】炭車を連結する鎖（ケッチン）が捻れた状態。炭車が車道からはずれて事故になる。

◎ノ「リマーシ【乗り回し】坑内でトロッコを配車する係。○ハ「コグリ（函繰り）とも。ノ「リマー」シサン（乗り回しさん）。棹取りから憎まれたら函を貰えない。採炭などで後向さんがほんやりした人だと函をつかむことができない。反対にべっぴんさんを後向に連れて行っていたら棹取がスク（好む）。そしたら函を回してくれる。

◎ハ「コ【函】炭車。鉄製の、石炭を運ぶトロッコ。

◎ハ「コガ ハ「シ」ル【函が走る】炭車が暴走する。

◎ハ「コマーシ【函回し】炭車の操作。選炭作業の際、選り分けられた石炭を積んだ炭車を操作すること。

◎ハ「ダシニ ナ」 ッタ【裸足になった】炭車が脱線して4輪ともレールから外れた。

◎ヒ「キズ」ナ【引き綱】ス「ラ（櫓）を引くときに使う綱。櫓には紐が付いていた。上がる時はそれを引っ張って上がる。

◎ボ「タ【硬】石炭を掘ったときに出る石炭以外の石。

◎ボ「タウチ【硬打ち】石炭についたボタを削り取るツ「ル」バシオ コ「モーシタヨーナ（鶴橋を小さくしたような）道具。これで打つと筋が入っているので石炭とボタがパッと割れる。

◎ボ「タヤマ【硬山】ボタの捨て場所が山になったもの。ボタ山がうず高くなることをグ「ンカンノゴトナル（軍艦のようになる）と言う。

◎ホ「ツパ【エ hopper】ホッパー車。底部に扉を備えた、じょうご型の貨車。坑内から上がった炭車をカヤス〈返す〉ホッパ、石炭を貨車に積み込むホッパがある。昔は手で返していたが、スキップ（スキップカー）を使うようになってから底部に扉ができた。

◎マ「キタ」テ【 】坑道の本線から枝別れするところ。○マ「キタ」テマデオ「シテ デ」チョカナバイ（マキタテまで押して出ておかなければならないよ）。

2. 7 照明・通気・保安・測量

◎「アンゼントー【安全燈】坑内で使うあかり。腰に弁当箱のようなバッテリーをつけ、頭に電球をつけた。大きな炭鉱でアンゼントーと言っていた。○ミ「ツイトカ イーヨ」 ッチョローケド「ネ（三井などでは言っていたらうね）。

この辺の小さな炭鉱ではキャップと言っていた。

◎ガ「スバ」クハツ【ガス爆発】メタンガスの爆発。○あの頃はまだこの辺じゃガスなどは無かった。坑内でガス爆発とか言うのは煙草の火が原因の時くらいしか無かった。掘っていてガスが出るところがある。そこを監督さんがランプみたいなものを持って調べて回っていた。

◎「カンテラ【オ kandelaar】坑内の灯火器具。中にガスの燃料を入れて手に下げ持つあかり。大正まで使っていたのではないか。カーバイトガスに火をつけた光源だった。

◎「カンラク【陥落】石炭を掘った地表が陥没したり傾斜したりすること。石炭やらはたやら取った後、仕繰り込みと言って大きな坑木を四つに組んではたを埋めたりするが、長年たったら腐って陥落する。この辺はどこが穴があいてもおかしくない。炭坑は穴だらけ。蜂の巣のようにになっている。

◎キャップ【エ cap】「アンゼントーと同じ物。この辺のコヤマ（小さな炭鉱）がキャップと言っていた。男は帽子に付ける。女は帽子を被らない。タオルなのでキャップは肩に掛けた。

◎コ「ーガイ【鉱害】石炭採掘のため、土地が陥没したり傾斜したりして建物、水田、飲料水などに被害がでること。

◎シ「バハグリ【芝はぐり】開坑すること。炭坑を始めるとき、芝を掘りあげて坑口を開けるのでこう言う。

◎ソ「クリョー【測量】炭層の位置、坑道の進路、切羽設定など測定する。コーナイソ」クリョー（坑内測量）とコーガイソ」クリョー（坑外測量）があった。

◎ヒ「バン【火番】坑内のカンテラの掃除や点検をする係。ササベヤ（笹部屋）という詰所にいた。

◎フ「ミコ」ム【踏み込む】古釘を足の裏に踏み込んで怪我をすること。坑内では枕木にレールを据え付けるときに使うシャ「ドー」クギ（車道釘）は使うが、大きいし、立っていることはないので踏み込むことはない。また、ス「ラ（櫓）」が壊れた時には普通の釘を使うがそれ以外に釘を使うことはない。→スラ、シャドークギ

◎ヤ「クニン【役人】坑内に入る労務以下の職員。ジ「ム」ショ（事務所）で事務をとる以外の人。ロームガ」カリ（労務係）、コーナイガ」カリ（坑内係）、ヨードガ」カリ（用度係）、キ「カイカ（機械課）、「デンコー（電気工事）の職員。

◎ヨ」ード【用度】炭坑で使う資材を管理、運用する係。

2. 8 機械・排水・電気

◎マ「キカタ【巻き方】炭車の巻き上げ機を操作する人。○下手な人がしたらシャ「グリヨ」ッタ（炭車が脱線したりした）。→シャ「クリマキ

◎マ「キバ【巻き場】巻き上げ機を操作するところ。○マ「キバ」ニ「オ」ル「ガー（巻き場にいますよ）。

◎ワ「キミズ【湧き水】坑道で突然湧き出す水。○普段はチ「ビチビ」デ「ヨ」ルケド「ポンプカ」タサンガ「ちゃんと上に上げる。しかし、フルトー（古洞）を突き破ったりすると一気に水があふれるのでそんなときは、退避する。→フルトー（切羽・採掘）

2. 9 生活・人事

◎ア「ガリケン【上がり券】ア「ガリセン（上がり銭）とも言う。小規模炭坑では坑内に入った坑夫が貰う、一日の給金の半分位の金額を記した券のことである。これをもって購買店で毎日消費する米、味噌、醤油などを購入する。購入した金額は給料から天引きされる。月給の前渡し。

金子（1974）には次のようにある。

あがりせん（上がり銭）毎年盆と正月には鉱夫の出稼率が急に落ちるので、休業明け三日位、入坑督励の意味で賞与を出し、昇坑の際就稼証明で現金を手渡す、これを上がり賞与、または上がり銭といった。

香春町の話者の使う意味とは、語形は同じでもかなり異なる。むしろ、ミ」アイ【見合い】に近い。金子（1974）の「見合い」についての記述は次の通り。

にぶきん（二歩金）炭坑で請負賃金の支払は、毎月一回、或は二回となっていた。その間の金繰には、見合という制度があって、その出来高の七～八割ばかりも前借して、勘定日にははなはだ少ない残額を受け取っていた。これを二歩金などといっていた（下略）。

◎ア「ガリザケ【上がり酒】仕事を終えて飲む酒。炭坑の仕事との関係の有無は問わない。○炭坑の寮などでは親方が真面目に働く人には「ま、一杯飲め」と言って飲ませていた。真面目に働く人は親方が奢る。ピンはねするものだから。

◎イ「チバンカタ【一番方】今で言う3交替の朝から一番目の勤務。二番目を二「バンカタ（二番方）、三番目を「サンバンカタ（三番方）と言う。

◎オー」ナヤ【大納屋】①单身者を集めて収容する大きな宿舎。後にリョ」ー（寮）と言った。②坑夫の雇い入れを委嘱され单身者はオーナヤに、家族持ちはナ「ヤに収容し、坑内現場の請負業を兼務していた人。→ナヤ、コナヤ、タイショ、マーカン

◎カ「ケコ」ーフ【掛け坑夫】自宅から通勤する坑夫。農家などから来る人の事。

◎カ「タイレ【肩入れ】就職の世話。○いくら小さな炭坑でもカタイレする人が居なかったら以前はどこ炭坑で働いていたなどと調べる。だから顔のきく人にカタイレしてもらう。大納屋の頭領が何かにカタイレしてもらうといい。

◎キ「ナ」コニ」スル【黄粉にする】制裁すること。○この言葉は言わない。聞いたこともない。制裁のために水をかけたのは聞いた。

◎「キンケン【金券】炭坑がお金のかわりに出した券。購買店でそれを使って日用品を購入した。

◎ク「リコミ【繰り込み】入坑の段取りをすること。

◎ク「リコンバ【繰り込み場】坑夫の集合場所。ここで点呼をうけて仕事の現場へ行く。

◎ゲ「タ「ハカセラレル【下駄履かせられる】追い出される。見切りを付けられる。

◎ゲ「タ ア「ズケ」ル【下駄預ける】不都合があつて、相手に決着をまかせる。

◎ゲ「ッテン【】頑固なこと。気が短いこと。すぐかーっとなる人。○ア「リヤゲ」ッテンキ モー ナ」ニカ イ「ワレン ツ「マラ」ン「バイ（あれは短気だからもう何も言えない、駄目だよ）。ゲ」ッテン ダ」シタトカ ユー「ガ」ヨー（かんしゃく起こしたとかいうよ、よく）。「炭層の中にある堅くて割れ目のない石や松岩」の意味ではゲッテンと言わない。

◎ケ「ツ「ワル【穴割る】雇い入れた坑夫が無断で逃走する。

◎ヌ「シトポリ【盗人掘り】正式の許可の下りてない炭坑。

○盗人掘りというのもあった。他人の土地を現場役人に交渉してしていたのだろうけど、正式な許可は国から下りていない。

◎ゴ「テクサレ【五体腐れ】ゴ「テシン（働かない人）をさらに強調した言い方。

○ソイ」キ ゴ「テクサレントコ」ワ メ「シ」モ ク「ワレ」ン（だから怠け者の家は飯も喰えない）。

◎コ「ドリ【小取り】仕事の助手。大工、左官の助手。左官の助手が泥を左官に渡したりすること。○コ「ドリガ コ「ドリ ツカウ」チュー（「助手が 助手を使う」と言う）。○コ「ーナイノ 」ナカノ ア「ト」ムキト 」イッショ（坑内の後向きと同じ）。

◎コ「ナヤ【小納屋】コ「ナ」ヤとも。宿舎の世話をされた人。世話役の息のかかった者。○アッ「チ」ワ ゴ「トーサンノ コ「ナ」ヤバ「イ（あの人は後藤さんのコナヤだよ）。→オーナヤ

◎サ「カニ ナ」ル【逆になる】赤字になる。支払日の受取の勘定で借金がまだ残っている状態。

◎ス「カブラ【 】怠け者。○アッ「チ」ワ ス「カブラ（あの人は怠け者だ）。

◎セ「ーリ【整理】人員整理。閉山したり、人べらしをすること。

◎ゾ「ーヨ【雑用】ゾ「ーヨーとも。生活費。

○ナ」シ コ「ゲ」ン ゾ「ーヨガ カ「カ」ルンカ「ネ」ー（どうしてこんなに生活費がかかるのかね。）○ゾ「ーヨガ イ「ル」ガ（生活費が必要だよ）。

◎タ」イショー【大将】大納屋を委嘱されて運営する人。会社から手当を貰うが、

ナヤ（宿舎）に入れた坑員からも手数料を取った。

◎テ「ゴ【手子】テ「ゴとも。手伝い。○チョ」ット テ「ゴ」センカー（ちょっと手伝わないか）。

◎ト「クハイマイ【特配米】一週間、日曜日を除き無欠勤で働いた人に支給される手当。米が支給された。

◎ナ「ガレモン【流れ者】よその土地から来た人。定住定職がなく流浪する者。

◎ナ「グレモン【なぐれ者】仕事をしないでぶらぶらしている人。失業者。仕事についているのに仕事をしない人はゴテクサレ、ドماغレと言う。

◎ナ「グレ」ル【 】事故や故障で思うように仕事ができないこと。○ナグ」レタ（仕事ができなかった）。

◎ナ「ヤ【納屋】ナ」ヤ、ナ「ガヤとも。宿舎。家族持ちの坑夫が入る住居。

◎ナ「ヤマーリ【納屋回り】ナ「ヤマ」ーりとも。労務係が社宅を回って、入坑の手配をすること。○ロ」ームガ イッ「ケン イ」ッケン マーリ」ヨッタデスモン「ネ（労務係が一件一件回っていましたものね）。そして朝昼晩、一番方、二番方、三番方で繰り込まなければならない。

◎ハ「ンバ【飯場】大きな宿舎。オーナヤ（大納屋）と同じ。○ア「スコノ ハ「ンパニ オ」ル（あそこのハンバにいる。）

◎ヒ「ジョー【非常】炭坑の大災害。○ヒ「ジョーガ ア」ッタ（大災害があった。）

◎ヒ「トグリ【人繰り】入坑の人員確認、欠勤者の補充などの人の繰り合わせをすること。

◎ベ「ントーマイ【弁当米】「マンキンテアテ」(満勤手当)の一種。一月間、休業日を除き無欠勤で働いた人に支給される手当。米が支給された。一月に25日以上働きに出たら10kg なら10kg という具合に支給される。

◎ホ「タ」ル【放たる】捨てる。○ソ「ゲナ モ」ン ホ「タ」レ。(そんなもの捨てる。)

◎ホ「タラカス【放たらかす】道具を使い放しにする。後始末をしない。

◎マーカ」ン【賄い】大納屋の賄い婦。

◎ミ「アイ【見合い】賃金の前借り。○ミ「アイオ キ」ル (賃金の前借りをする)。

◎ミ「ハリシヨ【見張り所】坑内係員、役人の詰所。

◎ヤ「マノ」カミ【山の神】炭坑で祀る神様。

◎ヨ「コイ【憩い】休日。○ア「シタ ヨ「コイ」ヤキ (明日休日だから)。

◎ロ「ーム【労務】坑夫の人事管理をする係。人繰りの仕事をする。→ヒトグリ

参考文献

- 岡野 信子 1983 福岡県の方言『講座方言学 九州地方の方言』国書刊行会
岡野 信子 1991 『下関市・北九州市言語地図』梅光方言研究 8 号
金子 雨石 1974 『筑豊 炭坑ことば』名著出版
杉村 孝夫 1999 田川郡香春町炭坑ことばノート『福岡教育大学 国語科研究論集』第40号

(すぎむら たかお・本学教授)